

緑内障

PETで早期診断

岐阜薬科大や 参天製薬など 脳の異変を測定

岐阜薬科大学の原英彰
教授と理化学研究所、参
天製薬などは陽電子放射
断層撮影装置（PET）
を使った緑内障の診断法
を考案した。眼底が傷ん
だ影響で脳に表れる異変
をとらえる。顕微鏡など
で調べる通常の眼底検査

では気付きにくい段階
で、異常を把握できる可
能性があるとみている。
二〇〇八年度中にサルな
どで試す計画だ。
緑内障は眼圧が上昇し
視神経に障害が起きて視
力が低下する病気。失明

原因の第一位で患者は四
百万人ともいわれる。自
覚症状がないまま悪化す
る場合が多く、早期発見
法が求められている。
原教授らは緑内障によ
って脳内にも異変が生じ
ると仮定。サルの目にレ
ーザーを当てて眼圧を高
め緑内障と似た状態に
した。そのうえで、死ん
だ視神経に集まる化学物

質を目印として注射し
た。

PETで撮影すると化
学物質は視神経とつなが
る脳の「外側膝（しつ）
状体」に集まっていた。
診断の目安になる可能性
があるという。